

授業科目名	疾患別理学療法Ⅶ（内部障害②）	授業形態	講義	配当学期	2年（前期）
担当教員名	山田 真輔	単位数	1単位	時間数	30時間
授業概要 学習目標	<p>〔授業概要〕</p> <p>人間が疾患を患うには原因があります。医学的な治療により疾患を完治したとしても、原因が改善されなければ、その人の生命予後やQOLを改善することは難しい。 疾患の病態や治療を理解することは言うに及ばず、その人の性格や生活習慣などにも目を向けて、発症した原因も追求していく意義は大きいと考えられます。 すなわち、疾患の病態や治療、そして、患者の背景にある問題点も考察し、そして運動療法が与える影響についても講義していきます。</p> <p>〔学習目標〕</p> <p>生活習慣と各疾患との関係性を、説明することができる。 各疾患の病態を、説明することができる。 運動が上記病態に及ぼす影響について、説明することができる。</p>				
授業回数	授業内容				
第 1 回	文明社会における疾患モデルの変換：飢餓から飽食、感染症から自己免疫疾患				
第 2 回	循環器系の解剖生理の復習と、運動が循環器系に与える影響について				
第 3 回	虚血性心疾患の病態・原因・分類・医学的な治療とリハビリテーション 特に生活習慣と動脈硬化性疾患の関連、そしてリハビリテーションの意義				
第 4 回	心電図				
第 5 回	嫌気性代謝・好気性代謝におけるエネルギー代謝について 嫌気性代謝閾値と酸素摂取量に影響を与える因子の検討				
第 6 回	慢性心不全について、HFpEFとHFrEFの病態と評価方法				
第 7 回	慢性心不全のForrester分類と各subsetにおける医学的治療とリハビリテーションについて				
第 8 回	慢性心不全の代償機転と治療戦略について 神経体液性因子が骨格筋に与える影響と、運動療法が神経体液性因子に与える影響				
第 9 回	急性期における心疾患患者の運動療法、目的とリスク管理				
第 10 回	回復期・維持期における心疾患患者の運動療法、運動処方や消費エネルギーの計算				
第 11 回	糖質・脂質・タンパク質のエネルギー代謝と糖新生について				
第 12 回	糖尿病の病態と合併症について 各合併症における運動時のリスク管理				
第 13 回	メタボリックシンドロームの病態 インスリン抵抗性が骨格筋に与える影響と異所性脂肪について				
第 14 回	筋力トレーニングの運動処方について 各項目（種類・強度・回数・頻度）の現在におけるエビデンスを紹介します。				
第 15 回	行動心理学について 患者の行動変容とそれに対するアプローチをグループワークを中心に実施します。				
評価方法	レポート課題にて評価を行う。（100%）				
教科書 参考図書	〔教科書〕「標準理学療法学 内部障害理学療法」 医学書院				
履修上の 留意点	呼吸循環系の解剖学や生理学について、復習しておくこと。				
メッセージ	内部障害に対する介入は、今後の医療において重要となります。 興味を持って取り組んでください。				